

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770800498		
法人名	株式会社ジェイバツク		
事業所名	グループホームもも太郎さん・喜多方		
所在地	喜多方市松山町村松字上原22番地		
自己評価作成日	平成23年10月11日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.Kaigo-fukushima.info/fukushima/top/d_o
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	福島県いわき市錦町大町2番地
訪問調査日	平成23年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である自由を重視し、利用者の方が自らの意思で自由に生活できるよう支援することに力を入れております。
もも太郎さんグループで作成した待遇スローガン「あなたの笑顔は私の鏡です。」を基に、尊重します・連携します・向上心を持ちますと、利用者の方が満足していただけるよう業務に従事しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1,夜勤勤務と早番職員との交替までの早朝時間帯にパート職員を配置し、離職の原因といわれる夜勤勤務の負担を軽減し、職員の定着を図った結果、馴染みの職員の増加をもたらし、利用者の精神的安定をもたらしている。
2,職員の表情は明るく、職員間のチームワークも良く取りながら利用者に沿ったサービスを心がけているのが伺える。
3,ヒヤリ、ハットでは些細と思われるようなことでも地域行政や家族に連絡し、緊密な信頼関係を作っている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63
			2. 利用者の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが	
			4. ほとんど掴んでいない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64
			2. 数日に1回程度ある	
			3. たまにある	
			4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65
			2. 利用者の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66
			2. 利用者の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67
			2. 利用者の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68
			2. 利用者の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	
			2. 利用者の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念である「自由に生活できる優しい介護をします」を共有する為に、毎朝申し送りの時間に参加者全員が唱和を行っている。	介護理念を、朝全職員で唱和し常に原点への立ち返りにつとめている。「事業所は家庭の延長」の考えから、利用者は酒、たばこをも楽しめ、各自の日常性が大切にされている。また、それを可能にする「見守り」が行われ、全職員が優しい声掛け、介護態度で接している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大きな行事には、ボランティア団体のカラオケ同好会や語り部さんなどに依頼し参加を促して、インフォーマルな活動を通し施設の公開と交流を図っている。	文化活動の盛んな地区に立地しており、ほぼ一ヶ月単位で地域の協力のもとで ダンスや大正琴、津軽三味線などの演奏会等が開かれている。地域の運動会や敬老会にも参加している。近隣中学校の体験ボランティア交流も毎年行われ、事業所もゴミ拾いや廃品回収に参加している。	文化活動やボランティアとの交流は活発に行われているものの、運動会や敬老会など外部イベントへ参加する人はやや少ない。車いすで観戦するなどの外出機会を増やすなどの工夫を期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と戸外での散歩には、行き交う住民の方々にご挨拶を交わして交流を深めている。また、認知症の啓発活動の一環として利用者を地域の目で見守る大切さを近所のご主人等にご説明してご協力を頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故事例報告・行事実施内容報告・介護処遇の取組方針報告を通し、意見を傾聴し、検討を重ねサービス向上に反映できるよう努めている。	運営推進会議には、どんな小さな事故事例でも逐次報告し、事故を未然に防ぐための有効な反省材料にしている。早朝時間帯にパートを配置して夜勤勤務者の負荷の軽減を図って職員の離職率を減少させ、馴染みの職員の増加による利用者の精神的安定をもたらした。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の運用や解釈についての相談。事故報告の提出などを通じて施設内で起こっている事柄をお知らせしている。	「風邪をひいた」という僅かな利用者の変調など、どんなに小さな事故事例でも具体的に報告し、指導等を仰いでいる。介護の実践者研修の資格取得フォローのため、市町村から介護支援専門員に派遣してもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	関連研修会参加・施設内ミーティング実施・組織内身体拘束防止委員会の設置。 身体拘束の現状：利用者の症状にあわせた危険予測を立てる。事故を想定し家族了承のもと以下の身体拘束を実施している。 転倒防止の為にベッド柵を施行している 帰宅願望出現時には玄関に施錠をする	骨折した利用者のために転落防止の観点から医療機関と家族との話し合いの上でベッド柵を一時使用したが、最終的に入院対応になった。転落防止のために畳がよい場合はそれを利用したりして拘束をしない方向を常にめざしている。帰宅願望者は馴染みの職員が増えるに従い精神的に安定し、施錠機会が減少している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の尊厳ある暮らしの実現を目指した取り組みとして、虐待防止の趣旨となぜ虐待が起こってしまうのかを話し合い虐待のない施設を目指している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項等をわかりやすく説明している。不安や疑問については、理解して頂くまで丁寧に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	フロアー入口にご意見箱を設置し、利用者や家族の意見を取りやすくよう配慮している。	意見箱だけでなく、入所時や家族の面会時、また、利用者との日常的なあらゆる機会を活用して、意見や要望等を聴取している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回実施する全体ミーティングや、随時提案されるさまざまな問題を受けて傾聴しミーティングを設定する。また、食事会や飲み会を開いて親睦を図り職員の親睦を深めている。	現場管理者だけでなく、本社役員も職員の意見聴取を行っている。徹底した意見聴取によって早朝時間帯へのヘルパー対応を行い、夜勤者の負荷の軽減を行い、課題だった離職率の改善や年間行事に「流しそうめん」が加わるなどの新たな企画が実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	長く勤めることができる環境作りを整備する。希望休日を選択し柔軟な勤務体制を設けている。当日の勤務人員に欠員理由があればすぐに人員変更などで休めるよう対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を奨励し賃金昇格の道筋を作っている。その際には、資格取得に必要な費用の全部または一部を会社が負担する。個人的に選択した研修会への参加には、自己申告があれば審査のうえ助言と参加への後押しを行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士の組織に加入しており、会議や大会があれば参加と研鑽に勤めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の言葉を傾聴し、何が不安であるのかを探り良好な関係を築く為の道筋を考える。 利用者の過去の経歴を調べ、可能な限り経歴にかかわる生活環境の構築をする。そして、利用者本人が居心地の良い温もりのあるサポートをする。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の身になって困っている事に傾聴し、問題を分析する。そして適切なアドバイスに心がけている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に行われるオリエンテーションでは、利用者が家庭生活の中でできなくなったことや、今後して欲しい要望を聞き取り実際に行えるよう環境整備をしている。また、施設生活の中で嗜好の発見が必要になれば随時家族と情報の交換をしている。		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることとできないことの見極めと、できないことへのアプローチを考えて自主性の涵養に努める。また、積極的な会話を促し傾聴と受容の中から信頼関係の構築に努めている。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望などの症状の出現があれば、連絡を密にして面会を促し面会時には施設行事のビデオやスナップ写真を一緒に見て頂いている。また家族から施設介護の希望があれば、居室や共用部分の解放をしている。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		利用者から自宅を見に行きたい希望が出た場合は、職員同行の上、実行している。そのために鍵を預かっている。また、馴染みの医療機関や行きつけの美容室への付き添いを行うとともに、囲碁、将棋の交流を日常的に行ない、更に、地域の敬老会やコンサートに参加している。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	対人関係を築ける事が可能な利用者には、帰宅願望などで不穏な利用者に対して関わりを依頼し、良好な対人関係を築くよう促している。また、できる事が共通する利用者間の仲介をいて頂き洗濯たみの作業などを一緒に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後のお見舞いや、以前は交流のあったご家族にお茶のみに来て頂くようお願いしたり交流のきっかけ作りをしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動の中に希望や意向の表現があれば確認して、実現可能であれば即対応できるよう努めている。そのときに、できないことがあれば、家族との連携で希望がかなうようにしている。	計画策定時やモニタリングで日常の行動を把握し、利用者の希望をくみ取っている。大正琴を習いたい時は、地域の愛好団体に要請し、歌が好きな場合には歌番組を録画して鑑賞したり、カラオケが楽しめる機会を設けたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査や家族や面会者とのかかわりの中から馴染みの環境を聞き取りして「利用者基礎情報」を作り、情報の蓄積と共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設内で不穏な行動があれば、介護記録をもとに不穏の原因と対策を検討して、不穏の解消に努めている。また、食事・水分・排泄・バイタル記録等を検討し健康状態の把握と対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一職員の目で見ただけでなく、全職員の意見や対応を計画に反映し作成している。	月に一度、全職員とケアマネジャーが参加する事業所独自のモニタリングとカンファランスを行い、また、毎週金曜に開催される会議の中で、全職員の意見を集約して介護にあたっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記的な問題があった場合など、全員で観察、記録を行い対策などに継ぎあっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望に対しては、できる限り対応している。対応不可能なニーズ(帰宅願望に)に対しては、ドライブや散歩などの代替支援で気分転換を図って頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	過去の生活歴を把握し、日々の会話や生活の中で本人が発揮できることを本人のペースで行なっていくことが、楽しみにつながるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を取り入れながら調整し通院先を選定して通院介助を行っている。その際には、医療関係者に通院先として選定しているご本人の意向を伝え受診体制の協力を求めている。	提携する医療機関はあるが、利用者に馴染みのかかりつけ医がいればそこで受診できるよう付き添い支援を行っている。複数の利用者がある場合でも、職員が協力して可能になるように支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴・整容・口腔ケアなどの介助時に身体チェックを怠らず、変化があれば申し送り記録や口頭で報告し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に出向き入院前の情報提供と予後の経過と対応を聞き取りして、受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針を説明して理解を深める。重度化や終末期を迎えたら、本人・家族・かかりつけ医・職員・関係機関等と協議して当事者の思いに配慮しながら方針を供する体制作りをしている。	看取りの経験は、まだないが、取り組むべく、今後、職員の研修や勉強会を事業所として実施する方針でいる。その際は利用者、家族と十分な話し合いを行い、さらに医療関係者と協議して早めの実現する方向でいる。	現状は正看護師がいないので「看取り」は今後の課題と自覚している。職員を資格ゼロからでも採用して育てる方針でもあり、その取り組みが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命士講習会に参加し、万が一の時の実技講習を受け、緊急時の対応を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民や関係機関と協議して連絡網による呼び出体制整備と役割分担の明確化を図っている。	避難訓練は年2回実行している。全社挙げての対応マニュアルが作成されているが、東日本大地震の経験を踏まえてアナログ用の通信設備を新たに導入した。災害対応の備蓄も食糧、飲料水、オムツ、毛布、懐中電灯などが、ライフラインが止まっても3日間は大丈夫なように備蓄されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	私達介護員は常に「人生の先輩の方々である」と言う尊敬の気持ちで接している。話し方の口調はゆっくりと明瞭に伝える。また、方言を話すときは、抑揚のあるやさしい話し方に心がけている。	「マナーを守ることは尊厳である」を心がけ、居室への入室時はノックをする。利用者の呼び方は「さん」付けで、時により「ちゃん」付の時もあるが、親しみとなれ合いを厳密に分け、「家族がそこにいたら、どう感じるか」をマナーの基準にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	調理・体操・アクティビティー等への促しは、積極的に行うものの、本人の意向を尊重している。消極的な利用者には趣味の掘り起こしを行いあらゆるアプローチにも挑戦している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のやりたい事・やりたくない事の見極めをする。数種類のアクティビティの中から選択していただき、希望の作業をして頂く。作業後には感想を聞き次回作業の参考にする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の髪結いや整容のお手伝い。その日の天気や行事・希望に沿った服の選定支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理への参加をうながし、野菜の洗浄や刻み作業を共同で行っている。食事の際には、調理中の様子を話し合いながら楽しみの演出をしている。	献立は利用者の好みや季節感を盛り込み、味付けも家庭料理の延長を心がけている。誕生日には外食でラーメンや寿司を味わったり、重度の利用者にはケーキで祝うなど利用者に沿った工夫を凝らしている。また、全員でテーブルを囲み、食べ残しも少なく、和やかな食事風景が見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状況、体重管理、咀嚼嚥下状況、嗜好など個人にあわせた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	当日の体調を確認する。顔色・表情も確認する。介護困難者には力の応じた方法や器具を用いてケアをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握した上で検討し、トイレ誘導など排泄の自立に向けて支援している。	一人ひとりの排泄記録をもとに早めの対応を心がけている。また、利用者の状態に沿った下着を選択介助して、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々のなかで歩行運動、軽体操と体を動かすようにしていると共に、食事についても野菜を多めに提供している。また、水分摂取については1日1300ccを目標にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	医師の指示がある以外の利用者様には、ほぼ毎日入浴をしていただいている。入浴の促しに拒否がある場合は希望の時間に合わせるなどの配慮も行なっています。	利用者の性格に合わせて順番を決めたり、病状を考慮した入浴など、変動はあるが、毎日の入浴が基本となっている。入浴が嫌いな人には花を浮かべてみたり、楽しく入浴出来るように工夫を凝らしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠を重点的に考えており、日中はその日の身体状況、または各個人の身体状況により臥床時間を設定するなど、休息と夜の睡眠とのバランスを図りながら支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局からの説明書を熟読するなど、理解に努めています。また、症状に変化がある場合は、医療との連携を図り慎重に対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、以前の趣味を活かしたものを日々の生活の中に取り入れ、会話の中で利用者の方が楽しかった思い出話を傾聴するなど、楽しみのある生活ができるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り外への散歩(日光浴)は実施しています。また利用者の要望で家を見に行きたい時は職員同行で出かけるようにしています。地域との交流については音楽会に参加したり、季節ごとのドライブに出かけるなど、定期的を実施しています。	かかりつ医や美容室などの日常的な外出はじめ、花見などの季節ごとの外出も行っている。特に桜や紅葉シーズンには大きなイベントとして行っている。また、自宅の状況確認では家族から鍵を預かり、職員が同行して出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金所持が可能な方に限り、本人責任の下管理していただいている。物品購入については、基本立て替えを差し上げているという状況である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より電話をしたいと希望があったときや受診の報告でご家族に連絡をした際にお話しをして頂いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花を飾るなど、さりげなく演出をしている。また、季節ごとの温度・湿度には注意し、過ごしやすい環境づくりに気を配っている。	ホール内には芋煮会などの家族と楽しんだ思い出の写真が展示されたり、趣味などの本が並べられた本棚がある。テーブルにはさりげなく季節の花々が飾られて置いてあり、和やかな雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内では、音楽を聞きたい人、テレビを見たい人、読書をしたい人個々の希望に合わせたスペースが保てる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていたなじみ有る家具を持ち込んでいただいたりして、居室ですごされる時間を居心地よくゆったりと生活していただける様にしている。	広い居室に使い慣れたベッドとキャビネットが使用され、女性利用者の居室のハンガーにはお気に入りの洋服がたくさん掛けてあり、おしゃれを楽しんでいる雰囲気が伺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の体位に合う高さのテーブルを準備し、食事や作業の際安全に自力で行いやすい様にしている。		